

食べ物からのコミュニケーション

～ カルビーの食育活動 ～

カルビーは、2003年から小学校への出張授業「カルビースナックスクール」を実施しています。内容は「身近なおやつを考える」をテーマとした学習プログラムとなっており、総合学習や家庭科の授業などの取り組みの一つとして活用され、2012年3月までに約24万人が参加しています。

カルビーフードコミュニケーションの定義

人々の健やかな暮らしに貢献するために、身近なお菓子を通じて、「たのしい食生活」をおくるために役立つ情報を提供し、体験していただける活動を実施します。

Calbee food communication

カルビーフードコミュニケーション推進テーマ

- ① 「楽しいおやつの食べ方提案」
- ② 「お菓子コミュニケーション」
- ③ 「自然の恵み」を活かした取り組み
- ④ 「安全・安心」「環境」への取り組み



「カルビースナックスクール」のコンセプトは、次世代を担う子どもたちが、身近であるおやつを通じて、すこやかに楽しい食生活をおくるために必要な、①正しい食習慣（おやつを食べる量、時間、商品パッケージの見方）と②自己管理能力（食選力）を学ぶとともに、おやつコミュニケーションとして、心の栄養、家族や友達との絆、たのしさ、癒し、リラックスを体感することにあります。

受講した小学生からは、『いままで、てきとうに食べてたけど、今日からはきまった「りょう」と「カロリー」の分を食べます。』『おしえてもらったおかしりのょう、おかしを食べる時間を、まもりたいと思います。』また、先生からは、「だめ」とおさえつけ

気づき

考え

行動
する



られるしつけから、知識をつけながら、自らが判断して摂取することの大切さを改めて理解しました、といった感想が寄せられています。

このような食べ物を通じたコミュニケーションや食育活動は、必ずしも同社の売りに上げに直結しませんが、ひとつの社会的使命として同社が地道に取り組む事業なのです。